

推理小説を科学する

ポーから松本清張まで

畔上道雄





科学をあなたのポケットに——発刊のことば

二十世紀最大の特色は、それが科学時代であるところを知りません。科学は日に日に進歩を続け、止まるところを知らず、今やわれわれの生活のすべてが、現実化しており、動かされているといっても過言ではないでしょう。

そのような背景を考えれば、学者や学生はもちろん、産業人も、セールスマンも、ジャーナリストも、家庭の主婦も、みんなが科学を知らなければ、時代の流れに逆らうことになるでしょう。

ブルーバックス発刊の意義と必然性はそこにあります。このシリーズは、読む人に科学的に物考える習慣と、科学的に物を見る目を養っていただくことを最大の目標にしています。そのため、単に原理や法則の解説に終始するのではなく、政治や経済など、社会科学や人文科学にも関連させて、広い視野から問題を追究していきます。科学はむずかしいという先入観を改める表現と構成、それも類書にないブルーバックスの特色であると信じます。

ブルーバックス B-532 推理小説を科学する

ポーから松本清張まで

定価 540円

昭和58年4月20日 第1刷発行



著者 上 道 雄
発行者 加 藤 勝 久
発行所 株式会社 講 談 社

畔上千代

東京都文京区音羽二丁目12-21
郵便番号 112
電話 03 (945) 1111 (大代表)
振替 東京 8-3930

一九八三年

本文印刷・慶昌堂印刷 表紙カバー・双美印刷 製本・中沢製本

Printed in Japan 落丁本・乱丁本は小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えます。

ISBN4-06-118132-7(0) (科)

推理小説を科学する

ポーから松本清張まで

畔上道雄



BLUE BACKS

www.erton

心理の深淵
殺すときの心理
科学性とは何か
竜の比重は？
往きかよう四つの樽



推理小説を科学する

ポーから松本清張まで

畔上道雄 著



ブルーバックス

——本書に掲載の日本人以外の作家のポート・レートは、早川書房のご好意により、提供されたものです。——

装幀・プラス・ビー

カバー絵・笠松 遊

図版製作・坊ヶ田茂

はじめに

推理小説はトリックが生命である。そのトリックは果たして科学的だろうか。これは難問である。

推理小説は本来興味本位の読物であるとおもわれている。トリックとは純粹に嚴密なものではない。それはうまく読者をだますのである。このような解釈はかなり一般的なものである。

してみれば、トリックの科学性などを吟味ぎんみしてみても、なんにもならないのではないか。わたしはそうおもっていない。

もちろん推理小説は広い意味で文学作品の一種である。その評価はいろいろな視点からないうる。

人物がうまく描けているか。社会の状況はとり入れられているか。文章はやたらに大げさではないか。そしてトリックはりっぱか。サスペンスは十分あるか。

そのさまざまな見地からの評価を総合したものが、その推理小説の価値をきめる。

その際、トリックの科学性ということも、評価の一つの基準となりうるだろう。もちろんトリ

ツクの良さとその科学性というのは同じではない。すぐれたトリックでも、科学の鏡にてらしてみると、どうも納得できないものもある。また、科学的には十分合格点が出せても、トリックとしてはあまりすぐれていないものもある。

推理小説論、あるいはトリック論を展開するのは、この本の目的ではない。ここでは単にトリックが科学的であるかないかだけをとりあげて論ずる。

ここには推理小説の歴史にのこる作家の名作のトリックをとりあげた。しかし止むをえずもれた作品もあることをおことわりしておく。

そして、そのトリックが科学的でないからといって、わたしがその作品の推理小説としての価値を否定しているわけではないのである。

たとえばⅡの「アリバイの壁」では、土屋隆夫の「影の告発」をとりあげて、そのトリックは科学的でないことを論じた。しかし、わたしはこの作品は推理小説としてはすばらしいとおもっている。

この本ではトリックの科学性は論じているが、その推理小説の評価はいつきいていない。科学性をはなれたトリックの論議、また推理小説の評価はべつの機会に稿をあらためて論じたい。

このテーマを講談社からもらったとき、わたしは正直いって困惑した。トリックの科学性、これはあまりにも書き方が多種多様である。どのように書くべきか、見当もつかない。

講談社の藤井俊雄氏はそのようなわたしをはげまして、きわめて示唆^{しき}に富む多くのアドバイスをよせられた。

健康だけを唯一の売物にしていたわたしは、五月中旬（一九八二年）に突然背中^{せなか}の痛む病にとりつかれた。この原稿の大部分は病床で書かれた。

女流作家の仁木悦子さんは、あのすばらしい傑作を病床で書かれると聞いて、信じられない思いがしたことがある。しかし、それが今や自分の身の上になったのである。

妻の千代はわたしの看護に追われながら、また今村恵美子さんは忙しい仕事から寸暇をさいて、病床で書いたため、みみずのはったようなわたしの下書きをきれいに原稿用紙に書きなおしてくれた。彼女らの努力と献身なくしてこの本は生まれなかったであろう。

ここに藤井俊雄氏と畔上千代、今村恵美子さんの三人に深く感謝してペンをおく。

ある晴れやかな日の朝に

著者しるす

著者、畔上道雄氏は、本書の原稿完成後の一九八三年一月、逝去されました。

● もくじ

はじめに

5



密室の謎

これが完全な密室

14

その瞬間の早業

22

奇想天外の密室

30

フェアか、アンフェアか

34

広い密室

38



アリバイの壁

人間とマネキンをまちがえるか

44

となりの家から犯行現場を見た犯人

50

目あれど見ず

53

モンタージュ写真は正確か

59

写真の影が真実を語る

62

ノストラダムスの大予言は何パーセントあたるか

68

科学は百パーセントを目指す

71

十六年前の因縁

75

崩れざるアリバイ

78

トリックの積極性と消極性

82

Ⅲ 入れかわりの早業 はやわざ

人間蒸発の謎

90

二秒間の早変わり	93
時間差密室の独創	95
ひげをつければ他人になれる？	96
論理をこえる感性	100
名探偵こそ犯人	103
胴体のない死体	106
入れかわりはここにも	109
トリックは科学的だが	111
母と娘の間	114
二十数歳の年齢差	119
理性と感性の融合	122
巧まざる自然の妙	124

IV

その時の心理

裏のその裏

一人三役は可能か

科学と文学の裂け目

心理の深淵

行儀のよい死体

殺すときの心理

心理的困難とは？

ポーカーで犯人をあてる

科学性とは何か

物証なき犯罪

171 165 157 150 146 140 138

132 130 126



独創のひらめき

心理的トリックの謎

これこそ科学だ

神と悪魔の間

杖とトンネルの関係

竜の比重は？

真理は日常的である

人生遊戯の果て

奇抜きわまるトリック

往きかよう四つの樽

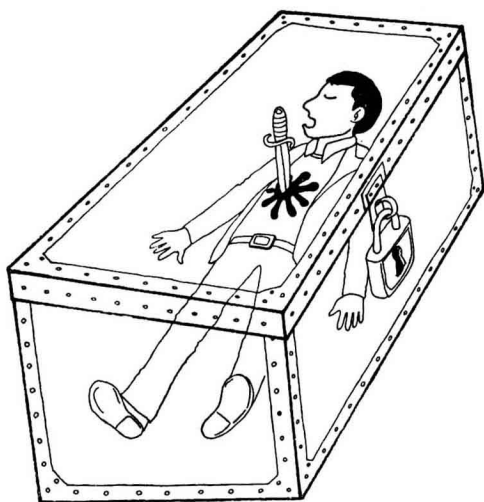
思わざる破たん

221 216 210 205 198 192 186

180 179 175

I

密室の謎



これが完全な密室

推理小説の醍醐味だいごみはなんといつてもトリックである。トリックがすばらしいものであることが、すぐれた推理小説であるための第一要件である。推理作家は独創的なトリックを考えだすために、骨身をけずって苦勞する。江戸川乱歩は中島河太郎その他数名の作家や評論家の協力をえて、じつに七百数十種のトリックを分類し、解説した。題して「類別トリック集成」、雑誌「寶石」の昭和二十八年九月、十月号に発表した。のちに改訂増補して「幻影城（正・続）」（講談社）に収録してある。

しかし、これだけトリックの数はあっても、その中でマニアがほれぼれするようなトリックというのは、案外と少ない。しかも、科学的見地からの検討にたえるものとなると、その数はさらに少なくなる。わたしはこれから古今の名作といわれるものに用いられたトリックをとりだして、はたしてそれが科学的に可能かどうかを検討してみよう。

トリックの花、トリック中のトリックといえば、まず密室内の殺人をあげなければならない。出入口のない完全に閉じられた密室の中で、人が死んでいる。犯人はどのようにして出入りした

のか。これについては多くの作家が我こそはという意気込みで、ありとあらゆる方法を考えている。

その中で、だれが見てもすばらしいのが、ディクソン・カーの名作「ユダの窓」にでてくる密室トリックである。



ディクソン・カー。

ジェイムズ・アンズウエルはメアリー・ヒュームと恋仲である。ジェイムズは二人の結婚のゆるしを得るために、メアリーの父であるエイヴォリー・ヒュームを訪問する。この会見はきわめて友好的に進行する。しかし、ジェイムズは出されたウイスキー・ソーダを一口飲

んだとたんに、気を失なった。

やがて気がついた彼のまえに、エイヴォリー・ヒュームが横たわっていた。矢を、ハインチ(約二〇センチメートル)も深く胸にうちこまれて。

ドアには部屋の内側から差しこみボルトがかかっていた。ドアには鍵穴らしいものさえない。エール錠はさびついてうごかな